



令和5年度 第2号



求められる地域の力

小金井市長 白井 亨

北多摩東地区保護司会の皆様におかれましては、日頃より地域の更生保護活動に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

この度、令和4年11月27日より、小金井市長に就任させていただきました。就任以来、その職責の重さを痛感し、身の引き締まる思いです。

さて、近年の犯罪傾向といたしましては、児童虐待に係る事件、サイバー犯罪、特殊詐欺、大麻取締法違反など、社会状況の複雑な変貌を背景に犯罪や非行はますます多様化しています。特に、若年層を中心に少年による犯罪は増加傾向にあるなど、犯罪情勢は深刻な状況にあると思われまます。犯罪の原因として、社会的孤立や経済困窮などが挙げられ、犯罪や非行をした方の立ち直りを社会全体で支えることが求められています。

これらを解決するためには、学校・家庭・地域が各々の役割をしっかりと果たし、連携した

絆作りと、活力あるコミュニティの形成が重要となります。行政の長として可能な限り、その実現に向けて邁進してまいります。

しかし、行政だけの力で、活力あるコミュニティを形成することは困難であり、市民と行政の協働が必要不可欠です。特に、犯罪や非行をした人が地域に溶け込み、コミュニティに加わるためには、地域の実情をよく理解し、日夜更生保護に関わっていただいている保護司の皆様なくしては、実現できないと考えております。行政としましては、皆様が円滑に活動できるように全力でサポートしていく所存です。

今後とも、犯罪や非行のない社会を作るために、引き続きさらなるご理解ご協力をいただきたくお願い申し上げます。北多摩東地区保護司会のみならず、私のご発展を祈念いたします。私の挨拶とさせていただきます。

北多摩東地区保護司会

「新春のつどい」開催

令和6年1月12日(金)12時から15時まで吉祥寺東急REIホテル3階「むさしの」の間にて新春のつどいが開催されました。開催に先立ち本年1月1日に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々、ご遺族の皆様に対し黙とうを捧げました。

望月加奈子会長、土公千鶴立川支部長、各省市長からのメッセージ披露、各省市議会を代表し落合武蔵野市議会議長の挨拶があり、ご来賓の皆様方の紹介(主任官・桐友会・各市事務局)がありました。その後は今年度に表彰を受けられた受章者に記念品



をお一人ごとに贈呈されました。演台の準備を整えた後は土公立川支部長を講師として「更生保護これから」をテーマとして出席者全員で耳を傾けながら聞き入る講演・研修が行われました。

前半の締めは、受章者を代表して藍綬褒章を賜

られた前三鷹分区長松村久子様よりの謝辞がありました。休憩後は、ここ数年

開催を控えていた懇親会が開催されました。小山茂多摩連顧問の乾杯に際し、前北東保護司会会長としての功績に対して五十嵐副会長からサプライズとして花束を贈呈しました。乾杯の後には出席者各々が各テーブルを回りながら和やかな雰囲気の中ホテルでの食事を楽しむことができました。

(総務部長 村雲 祐一)



第7ブロック保護司組織運営連絡協議会の開催について

今年度は令和5年10月26日(木)に武蔵野スイングホールにおいて開催されました。当日は112名(来賓12名・協議員84名・オブザーバー16名)の参加があり、開会挨拶・来賓紹介に続き五十嵐京子副会長(座長)により、各地区の意見発表が行われました。

今回は「新人保護司の育成について」と題し、各地区の発表者の提議やそれに対する質問等がありました。北多摩東地区は和地誠一副会長から協議題の発表が行われ「仕事をしている保護司が多いことや分区の活動や研修等もあり育成が難しくなってきた。そのため初めての保護観察については先輩保護司と複数担当にしたり、サポートセンターを利用した意見交換の場を作り、新任保護司を一人にさせない努力が必要である」とまとめられました。



大変興味深かったことは、これまで長年経験されてこられた先輩保護司から「手弁当で対象者と向き合ってきた、先輩からどのように教わってきた」との発言がありました。それに応えるように若手の保護司から「現実的な課題も多々ある」とあり、どちらでも「現実」であり双方の率直な意見交換に有意義な協議と感じました。今後の



保護司活動の維持向上のための大事な道筋を照らされたように思いました。

保護司の減少が取り沙汰される一方で、その保護司の資質が問われている現状とのこと、新人である私は非常に重責を感じます。区内では諸先輩方の直接または間接指導を多く受け、対象者への向き合い方はもちろんのこと、先輩方との会話や信頼関係から私自身が豊かな人生へ向けて、学ばせていただいているように感じております。

保護司に「なった」ではなく、「なっていくもの」と心に留めまして、勤務の都合のため夜間の研修会を開催いただくことに感謝しつつ日々の研鑽に努めたいと心から考える良い機会となりました。保護司1年目での初めての参加でしたが、当番地区として皆様にご指導いただきましたながら努めさせていただきます。大変ありがとうございました。

(小金井分区 小野 留美子)

春の褒章受章者

藍綬褒章

三鷹分区 川口章洋氏



春の褒章において、川口章洋氏が藍綬褒章の栄に浴されました。

川口氏は平成11年9月に保護司を拝命、令和4年に法務大臣表彰を受章し多岐にわたるケースを担当し、また三鷹分区の会計として三鷹分区の発展に寄与され、また長年の経験を基に後進の育成にご尽力を頂いています。受章にあたり心よりお祝い申し上げます。

三鷹分区 松村久子氏



春の褒章において、松村久子氏が藍綬褒章の栄に浴されました。

松村氏は平成12年5月保護司を拝命、令和元年法務大臣賞表彰を受章し20年の永きにわたり更生保護活動に従事し、研修部長・三鷹分区副分区長2期・分区長を2期、北多摩東保護司会副会長として活躍されました。受章にあたり心よりお祝い申し上げます。

東京更生保護事業関係者顕彰式典

令和5年度東京更生保護事業関係者顕彰式典では、北多摩東地区保護司会関係者24名がその功績を顕彰されました。(敬称略)

藍綬褒章(春)

川口章洋(三鷹)
松村久子(三鷹)

法務大臣表彰

宮下みさ子(武蔵野)
三橋優子(三鷹)

全国保護司連盟理事長表彰

五十嵐京子(小金井)
小山茂(小金井)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

井澤邦夫(国分寺)
石井一也(国分寺)
本多晴敬(国分寺)
尾作義明(国分寺)

関東地方保護司連盟会長表彰

伊藤さつき(武蔵野)
木川憲子(武蔵野)
塚越明夫(三鷹)
本多勇(国分寺)

東京保護観察所長表彰

霜鳥文美恵(小金井)
大久保忍(三鷹)
森屋正(三鷹)
和田俊彦(三鷹)

東京都保護司会連合会会長表彰

加藤真由美(小金井)
原島秀夫(国分寺)
日向博(三鷹)
内田正明(小金井)

東京保護観察所長感謝状

家族功労者
須藤啓子(三鷹)
村雲久恵(武蔵野)

第74回

社会を明るくする運動

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」

武蔵野分区



11月26日(土)、社会を明るくする運動啓発活動を西部コミュニティセンターの第35回西部コミセン文化祭会場の一部をお借りし開催しました。当日は季節外れの寒さを感じながらも昨年に続き啓発活動を行うことができました。

西部コミセンは武蔵野市の西側に位置し地上3階、地下に体育館等の設備があり、またロビー、和室、茶室、調理室、会議室、学習室、多目的室、視聴覚室などを持つ大型の施設で地域のコミュニティ活動や情報発信の拠点として利用されています。活動としては啓発品の配布、保護司活動の紹介、パンフレットの配布、そして今回は人気商品といわれている洗濯石鹸ブルースティックの販売をしました。会場内には小・中学生のユーモアたっぷりの作品、熟年の方たちの力作、時間をかけた作品、各種団体の活動報告、コミセンの活動報告、展示が多数ありました。

短い時間での啓発活動ではありましたが地域住民の皆様の良い反応が感じられた開催でした。(村雲 祐二)

三鷹分区

9月10日(日)15時より八幡大神社例大祭御神輿巡行の後方にて社会を明るくする運動の広報活動を実施いたしました。コロナの影響で4年間巡行ができなかったために物凄い人だかりの中でしたが、河村孝三鷹市長をはじめ、三鷹警察署長、関係団体の30名あまりの方が猛暑の中を、熱中症対策を取りながらタスキや幟を揚げ、横断幕を広げ、リーフレットを配りながらお祭りの見学者等の方たちにアピールをする事ができました。



以前に神社関係の方が保護司にいらっしやうだったので例大祭が社会を明るくする運動のきっかけとなり、今回も大変意義のある活動ができたと思っております。(宇田川正浩)

小金井分区

10月14日(土)15日(日)小金井公園において「第51回小金井なかよし市民まつり」が開催されました。会場には多くの店が立ち並び、賑わいをみせていました。



小金井分区では、コースターやペンケースなどの刑務所作業製品の販売を行い、販売で得た収益金は、更生保護施設へ寄附をさせていただきました。併せて、中学生ボランティアとともに薬物乱用防止啓発活動を行いました。こうした活動を通して多くの人に更生保護活動を理解していただく貴重な機会となりました。

国分寺分区

11月5日(日)に『国分寺まつり』が4年ぶりに開催され、コロナ前は約3万5千人だった来場者が主催者発表では約8万人を超えるほどになり、会



場の都立武蔵国分寺公園は歩行が詰まるほどの人出となりました。社明のブースではPRとして刑務作業品販売とホゴちゃん・サラちゃんのぬり絵ワークショップを行いました。また、12月2日(土)には、いずみホールで本年度2回目の『ひまわりコンサート』が行われました。13時から



の第一部は市内小中学生、第二部は18時から国分寺市交響奏楽団、いなほ交響奏楽団&早稲田実業学校吹奏楽部、こくぶんじ吹奏楽プロジェクトによって吹奏楽が披露されました。この日は2回、社明PR用DVDと保護司による社明活動報告とBBS会報告を約700名の来場者にPRできました。(林 博行)

更生保護女性会 活動報告

更生保護女性会

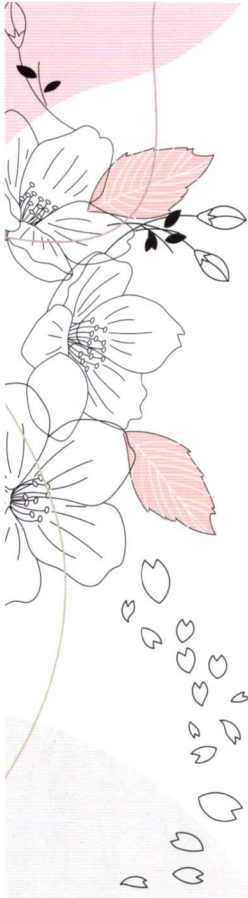
会長 高木 和子



11月14日
(火)、参加者は制限内の29名で「久里浜少年院」を訪問しました。当

少年院は、比較的非行の程度が深い少年や、処遇上の配慮を必要とする外国籍の少年が収容されており、現在の在院者は44名です。

昭和3年小田原少年刑務所浦賀出張所として開所し、戦時中は海軍対潜学校となり、復員船「氷川丸」に関わる少年院の歴史をお聴きし、矯正教育・処遇等の説明を受けました。その折「現在、日本において高



校進学率はほぼ百パーセント近くありながら、在院者の半数は中学校卒ということをどう考えますか」と問われました。この問いに、今社会で起きている様々な憂える課題と結びつくのを感じました。地域に在って地域をよく知る者として、「できることは何か」と考えさせられる研修となりました。



会長

本木 治子

桐友会だより

コロナ感染症も5類に移行し、例年の行事が再開されるようになりました。

令和5年11月北東地区保護司会主催による「地区更生保護事業関係者連絡協議会」が開催されました。

ヤングケアラー当事者自らの経験を交えての講演会。当会から2名出席、貴重な時を過ごすことができました。

三鷹分区では、商工まつり・三鷹分区懇親会・北東地区保護司会三鷹分区の川越少年刑務所での研修等に参加。小金井分区では、分区懇親会・第51回小金井なかよし市民まつり・北東地区保護司会小金井分区懇親会等に出席。

諸行事に適宜参加出席して交流を深め、更なる絆が犯罪予防の一助になれますように願っております。



多摩連情報

多摩連(多摩地区保護司会連絡協議会)は、立川支部管内の各地区保護司会の連携を密にし、保護司活動の充実等を図り、その使命達成に寄与することを目的としています。

西多摩、八王子、町田、日野・多摩・稲城、北多摩東、北多摩西、府中、調布・狛江、北多摩北の9地区の組織です。

各地区の会長、分区長、部長が理事となり、総務、研修、地活、広報の部会に所属し、活動しています。

令和5年度の活動

多摩連受賞祝賀会

令和5年12月8日(金)

多摩連研修会

令和6年2月13日(火)

多摩連理事会

令和5年6月26日(月)

多摩連常任理事会

令和5年5月10日(水)

令和5年9月6日(水)

令和5年12月21日(木)

令和6年3月28日(木)

多摩連部会

年2〜3回

地域別定例研修

令和5年度 第Ⅱ期地域別定例研修
研修テーマ

「更生保護法の一部改正について」

令和5年度地域別定例研修の1回目を11月14日(火)に14時から武蔵野プレイスにて、2回目を20日(月)に18時30分からココブンジプラザにて開催されました。

テーマは『更生保護法の一部改正』について、法の施行前でもまだ実例もなく、講師が大枠を理解した上での説明となり、受講者にとってもはつきりした輪郭をگریップしにくいテーマでした。ただ、ポイントとしては現在の懲役刑と禁固刑を令和7年6月1日より一本化し『拘禁刑』として新たに設置すること、そして我々保護司に関わってくるのが『保護観察処遇の充実強化』です。これは被害者への謝罪や贖罪感、そして弁償について加害者の今後の対応や気持ち等を我々が聞き取り、それを報告するというもの。民事的なことへ一部関わるのは『充実強化』という理解でいいと思います。また『仮解除』の新設については、

良好な対象者にとって『社会復帰支援の推進』の観点から歓迎したいポイントだと思われました。出席率は合計で66%となりました。

第Ⅲ期地域別定例研修のテーマは『面接について』でした。

(研修部長 林 博行)

BBSA

北多摩東BBS会

会長 岡部 隆穂



このたび、北多摩東BBS会の会長になりました、東京学芸大学2年の岡部隆穂と申します。

困難を抱えた子どもに寄り添い、兄や姉のような立場で一緒に学び、一緒に楽しむというBBS会の理念に惹かれて入会し、会長を務めさせていただくことになりました。任期が1年間ほどとても短い間にはなりますが、副会長の原田と共に協力し、様々な活動に取り組みできるように、主体性を持って動いていきたいと思っています。今後ともよろしく願っています。

(写真右・会長岡部、写真左・副会長原田)

コラム「窓」

母に感謝

国分寺分区分 二瓶比呂子

昭和48年北多摩東に各部会が発足し、広報誌が創刊されました。本年度50年を迎え、雑感を寄せたいと思います。

当時の会長勝田宗英氏が、創刊号の巻頭言を書いておられるので一部分を抜粋いたします。

表題は「世相におもう」です。「敗戦のあの虚脱状態から国民が立ちあがり、黙々と働きつづけ、経済成長のスローガンにひたすら協力してきた。この28年間物資の生産向上が国民の幸福をもたらすものと信じて」。中略『保護司法、犯罪者予防更生法には、世論を啓発指導し社会環境の改善に努め、また犯罪予防のための地域住民の活動を助長していくと明記してある。』中略『環境浄化活動をおし進めるために、我々保護司がその中核とならなければ、十分なる効果があらならないのである。』最後に、『地域社会と緊密な連けいをもって、明るい社会具現のため、積極的に取組んでいきたい。』と結んでいます。

編集後記では、『次号よりは、皆様のご自由な投稿によりでき上げる会報です。沢山の原稿をお待ちしております。』という文面が記されています。

第2号の「研修コーナー」は、「教えてください」「お答えします」として、保護司からの質問に保護監察官が答えています。総務部・研修部からの報告なども掲載されています。

ご紹介した創刊号と第2号は、私の母が保護司であった時に、広報部員として創刊号からの編集に携わっていたため大切に保管していた物です。本年度、私が広報部に所属したことがきっかけとなり母から手渡されました。

創刊号から73号(平成9年10月発行)までの内、66誌が自宅保管されています。

母と供に読み返す機会を持つことができました。先輩保護司としての当時の母の姿を思い出し、母に尊敬と感謝の気持ちを言葉で、伝える事ができました。

時代の変化はあっても、保護司の社会貢献の姿は変わらないと感じました。



武蔵野分区

日帰り研修

12月1日(金)に国立市の「更生保護法人くにたち安立」を視察してきました。

閑静な住宅地にあるこの施設は、手入れされた中庭もある2階建ての建物で、訪問時は定員35名のところ8名が入所しているとのことでした。国からの補助金の他、地域の方、保護司会、更生保護女性会などからの支援により運営されていますが、近隣の方々の理解が不可欠であり、地域の団体へ集会所を開放することもあるそうです。



三鷹分区

日帰り研修

12月15日(金)川越少年刑務所への日帰り研修を行いました。

川越少年刑務所の特徴は「若年者を中心として収容する刑務所」になります。入所年齢は更生が期待できる18歳〜26歳の成人男性が収容されているそうです。

入所者の犯罪は財産犯・性犯・凶悪犯・薬物事犯・交通事犯等の順になります。特にここ数年は財産犯が川越少年刑務所の入所者の約半分になるそうです。



また、施設内に

北多摩西部地区保護司会のサポートセンターが併設されており、この日はお忙しい中、柳川利康会長が説明いらして



くださいました。更生保護施設の中にもサポートセンターがあるということは、とても良いことだな、と思います。視察の後、サントリービル工場での大切さを学びながら環境問題へ考えを巡らせ、深大寺水神苑にて四季を感じながら懇親会で意見交換を行い、充実した1日となりました。

(中川知子)

入所から出所までに矯正更生プログラムが生まれ、社会復帰に向けて総合職業訓練施設が充実し、理容・自動車整備・溶接科・CAD技術科など多岐の職業訓練を全国の受刑者から募集して実施しています。また、一日の生活スケジュールも規則正しく組まれており午前と午後には矯正処遇の実施が組ま



れていました。川越少年刑務所は若年の入所者が多く刑務所内での行動や運動が実生き生きとしていました。

(森屋 正)

ぶんくつピックス

日帰り研修

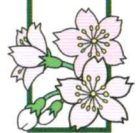
小金井分区

管内視察研修

12月18日(月)八王子市の更生保護施設紫翠苑を視察しました。南多摩地区保護司会の発意で昭和32年に男子少年を対象とし設立された「八南



会」を起源とし、昭和56年に全国初の女子少年専用更生保護施設「紫翠苑」として誕生しました。現在は成人女子(受刑者・起訴猶予者等)も受け入れ、生活指導、就労・就学指導等、社会復帰自立生



活支援を行っています。

集団処遇やプログラムには、生活ランク制度と成績ポイント制度によって門限時刻等制限を自己裁量で変更できるなど工夫されています。また対人関係や共同作業の体得等のために、更生保護女性会のふれあいクッキングやBBSのクリスマス会、東京藝術大学の純銀指輪製作などレクリエーション活動に多面からの支援がとても大切な事だと分かりました。

施設職員の確保・育成が重要な運営課題であること、今後進む高齢者受け入れ対応など、更生保護施設のためには必要性や重要性、困難さを学ぶことができました。

(宅島孝喜)

国分寺分区

前橋刑務所を尋ねて

紅葉が散り残る上州路をたどり、12月11日(月)、国分寺分区11名で前橋刑務所へ日帰り研修に参りました。コロナ禍による自粛が続く、久しぶりの研修。矯正施設見学は初めてという保護司も加えて充実した一日を過ごしました。



荘重なレンガ塀に囲まれた前橋刑務所では、作業工場で立派な木工製品が数多く製作されています。ま

た、収容者は80代の高齢から外国籍、累犯者と様々です。話をお聞きすると、収容者数は減少しているというのですが、比較的再犯傾向が進んだ収容者を受け入れており、職員の方のご苦労が伝わってきました。出所後再び刑務所に戻らないように支える地域づくりへの思いを新たにしました。

(田中久美子)



年二回発行

昭和四十八年十月一日創刊

令和六年三月一日発行

三鷹市

令和5年12月15日(金)から令和6年1月31日(水)まで、三鷹駅前南口ペDESTロリアンデッキにおいて、イルミネーションを実施しました。これまでは、地元商店会のご尽力により、三鷹駅南口ロータリー内の高さ15mの樹木にイルミネーションを装飾していましたが、樹齢を重ね倒木の危険性が高くなったことから、令和5年8月に伐採を行いました。駅前を通行される方から、今冬は駅前が寂しいとお声もあり、駅前の賑わい創出として実施しました。



JR中央線のホーム上からも寒い夜長、綺麗に輝くイルミネーションを見ることができます。

武蔵野市

武蔵野市では毎年11月から翌年1月まで中央線吉祥寺駅北口・三鷹駅北口・武蔵境駅南口ロータリーにてイルミネーションが点灯され輝いています。それぞれに色彩され、夕方から各三駅前を飾っています。JR中央線のホーム上からも寒い夜長、綺麗に輝くイルミネーションを見ることができます。



(写真提供：武蔵野市)

光

国分寺市



3月22日(金)～4月7日(日)予定、史跡武蔵国分寺跡にて、春のライトアップが実施。国分寺駅から徒歩約13分(西国分寺駅から徒歩約15分)。

武蔵国分寺跡に咲く優美で華やかな美しさを一層際立たせるため、26本の桜の木に花卉が持つ白や淡いピンク色を引き出す白色スポットライトを使用し、夜の静寂を彩ります。



光がまちを彩る12月の武蔵小金井駅周辺の風景。光に包まれた雪だるまが道行く人々を温かく見守っています。まちには光のシャワーが降り注ぎ、誰もが自然と笑顔になれるとてもスペシャルな時季です。ほんのひとときでも人々を和ませる「光のちから」。これからもみなさまの心に光が灯りますように。

小金井市

退任保護司

永い間お疲れ様でした。今後も益々お元気で活躍ください。さいますよう祈念申し上げます。

小泉 利康氏(国分寺分区) 令和5年9月16日(在職10年)

藤尾 忠洋氏(小金井分区) 令和5年9月16日(在職10年)

下平 紀子氏(武蔵野分区) 令和5年10月31日(在職2年)

新任保護司

左記の方が委嘱されました。今後のご活躍を期待いたします。



(武蔵野分区) 井口 大也氏 令和6年2月1日 発令

編集後記

世界に目を向けると、自然災害や拡大する人道危機など悲しい出来事も続いています。一方、令和5年は、コロナ禍も収まり、対面での会議も再開されました。スポーツ界や将棋の世界など若者の活躍が続き、誰しも令和6年の幸せな年の始まりを信じて正月を迎えていました。そのような新年の喜びも東の間、元旦の夕方には、能登半島を中心とした震度7の地震があり、幸せな生活は奪われ、道路や水道といったライフラインが被害を受け、未だに過酷な避難所生活が続いている状況です。亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りするとともに、一日も早い被災地の復興を願っております。今回の4市の共通テーマは「光」。日本も世界も、希望の光に満ちた日々を送ることができそうです。心から祈っております。 私たちも改めて足元を見つめなおし、日々の研修や対象者に寄り添い謙虚に耳を傾ける中で得られる新たな気づきも大切にしたいと思えます。「賢いものは学びたがり、愚かなものは教えたがる」耳の痛い箴言です。北多摩東の広報誌も1973年の発刊から50年がたち、新たな歴史を刻もうとしております。今まで本紙を支えていただいた多くの皆様から御礼を申し上げますとともに、今後ともよろしく願っています。

(広報部一同)

発行者 編集人

北多摩東地区保護司会 山本 雄一 電話〇九〇(二六〇七)〇二七一

